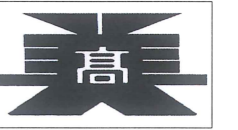


# 美方高校新聞



発行所 福井県立美方高等学校  
編集責任者 新編集責任者 新編集責任者

## 文化部一年間の” 総結集” ! ラ・ベラ・ピアッツァ

六月四日、上中の若狭パレアで、ラ・ベラ・ピアッツァが開催された。去年に続き、コロナ感染予防のため各部展示と吹奏楽部、合唱部コンサートのみになった。  
規模は縮小されたが、どの部活も日頃の成果を十分に発揮しており、会場は大いに盛り上がった。

### みんなの心を 一つに演奏 吹奏楽部



第一部では7月に行われるコンクールの自由曲「想い麗し浄瑠璃姫の雫」を披露。様々な楽器の音が重なり深みのある演奏であった。第二部は雰囲気を変えてポップな選曲となった。パイレーツ・オブ・カリビアン、の迫力のある演奏の後、初心LOVE、アラインメドレー、八木節で会場全体を盛り上げた。最後は、ミカタメドレーで、たくさんのお客様を魅了した。部長の小畑由理さんは「練習の際、上手いかないときがあったが、本番はたくさんのお客様に向けて気持ちよく演奏できた」と話した。

### 個性ある歌声 工夫を凝らして 合唱部

一年生三人、三年生三人と少ない人数ながらも会場に歌声を響かせていた合唱部。まずは「気球を飛ばす」を演奏した。部長の河合寿美さんは、「先輩と一緒に、歌う曲もいろいろと楽しんだ。人数が増えてきたら、もっと色々な曲を演奏したい」と話した。保護者の方々は、「今回のラベラで、今までの練習が実ってよかった」、「気持ちの良い歌声で聞いている側も癒された」と感動していた。



OGと共に歌う合唱部

に乗って」、「夢見たものは一等、馴染み深い合唱曲で観客の心をつかんだ。」「H g i i H o i y G u e e m」 「虹」ではOGも参加した。最後に「群青」は吹奏楽部と合同で迫力あるステージとなった。アンコールでは先生やOG・吹奏楽部が舞台を飾った。

参加した先生方は「甘いお菓子とほろ苦いお茶が美味しかった」、「お茶をいただくお作法が難しくして少し緊張した」と感想を話してくれた。講師の河村光信さんは「お茶に向き合う姿勢が綺麗だった」と笑顔で三年生の成長を喜んだ。部長の八木里奈さんは「茶道を通じて姿勢や礼儀、作法を学んだ。普段の生活にも生かしたい」と語った。私たちが取材後に振る舞って頂いた。お茶はお菓子とよく合い、私たちの心を温めた。



緊張感あるお点前

### 個性豊かで 自由な 美術部

美術部は、三年生十三人、二年生六人、一年生七人で活動している。ラベラでは、個人の絵画作品を展示した。作品のイメージをしっかりと作り、完成度が高く目を引くものばかりだった。保護者の方は、「どの作品も個人的で上手く、毎年レベルが上がっていてとても素敵だ」と目を輝かせながら語った。



美術部の集大成

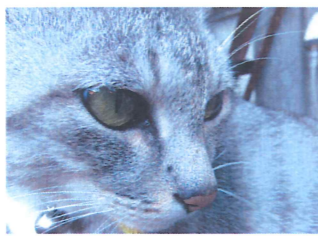
### 努力を重ね 笑顔届ける 調理部

調理部は一年生が五人、二年生が四人、三年生が四人の十三人で活動している。活動内容は購買で売るかばちやクッキーを作ったり、フードロス削減プロジェクトに取り組みしている。今回のラベラでは、コンサート終了後に、来場者へのプレゼントとして部員たちが作った菓子を配った。スティック型のレモンケーキで、何回も試作を重ねて完成した自信作だ。ラベラ本番二日前に約二百個も作ったという。部長の和田心さんは「来場者はレモンケーキを笑顔で受け取ってくれて作った甲斐があった。生徒がおいしいと言ってくれて嬉しかった」と笑顔で語っていた。

とメッセージを送った。そんな大谷さんは、福井県代表の七棒を勝ち取り、八月に開催される全国高等学校総合文化祭に、作品を出品する。これからの美術部の活躍に目が離せない。

### 一人の世界 趣のある風景 写真部

写真部の活動内容は、日常生活のワンシーンを写真に撮ることだ。毎週金曜日の朝に顧問の先生に写真の受け渡しをしている。部員は部長の二年生千葉美怜さん一人だけで活躍している。



眼光 作：千葉美怜さん

感想を聞くと「どの部活も一年生が加わって華やかだった。ほかの部活の活躍を見て写真部も人数が少なく大変だけど頑張っている」と語っていた。

### 日本の伝統 ここにあり かるた部

かるた部では、実践練習中心に取り組み、朝練にも励んでいる。部員は一年生七人、二年生一人、三年生六人の計十四人で活動している。

今年五月の福井県高校かるた選手権では、個人の部で四人が優勝、団体では三位という結果を残した。七月二十四日にある全国大会の個人戦には部員全員が申請により出場できる。

### 強烈な払いが炸裂!



きるようになった。部長の山田悠華さんは「私がカルタをやると思った経緯は、小学一年生の時に地域のカルタに関するチラシをもらい、楽しそうだと思ったから。一、二年生は、これからは部活の内容を決めたりして大変になると思うけれど、力を合わせて頑張りたい」と語った。

### 読みたくなる 新聞を目指す 新聞部

これまで発行した号外や定期新聞を展示。帰ってゆっくり読めるようにお持ち帰り用の新聞を準備した。来館者は「息子が持ち帰ってきた新聞を

### 編集後記

美方高校新聞を読んでいただきありがとうございます。今回の春季総体、ラベラが一年生にとって初めての取材でした。初の号外ということもあり苦戦することも多かったですが、しかし先輩方に丁寧に教えてもらい、完成させることができました。



展示品の前でキメ顔



# 美方高校新聞



発行所 福井県立美方高等学校  
編集責任者 新井 龍一  
編集委員 新井 龍一

## 陸上部の快進撃 八名が北信越出場



1500mを颯爽と駆ける

陸上競技は五月二十八日(三十日)、9・98スタジアムで他の部活に先駆けて行われた。今大会で上位六位に入った八名が出場権を掴んだ。六月十六日(十九日)に行われる北信越大会で上位六位以内に入るとインターハイが決まる。

一五〇〇mで一位に輝いたのは三年中村友翼さん。中盤までは誰が勝ってもおかしくない展開だったが、ラスト一周で前に出た。「自分の



差を広げる全力の走り

走りをするれば勝ると信じていたので緊張はなかった。最後の力を振り絞り自分に負けず頑張れた」と語り、四分を切る自己ベストをたたき出した。北信越では「絶対にインターハイに出場したいので気持ちと状態を上げていく」と強気で語った。やり投げに出場した矢追光希さんは、予選一投目五十五m十五、決勝五投目五十六m十六と記録を伸ばし三位入賞。自身三回目の北信越を決めた。矢追さんは「北信越はより強い選手と戦うが自己ベストを更新し、



50m越えの投擲

堀田先生に賞状を渡したい」と意気込んだ。また、キャプテンとして「不甲斐ない時もあつたが、毎日辛い練習をこなし最後

【男子】  
一位 中村友翼  
二位 矢追光希  
三位

まで頑張ってきた。後輩も部員同士仲良く、一年生は二年生の指示をよく聞き頑張っていた」と話した。

【女子】  
一位 中村友翼  
二位 大下翼  
三位 上田凌久  
四位 友松悠人  
五位 大同陸斗  
六位 佐藤鳳羽  
七位 佐藤鳳羽  
八位 佐藤鳳羽  
九位 佐藤鳳羽  
十位 佐藤鳳羽

### 一回戦突破！ 強敵に立ち向かう 熱い試合 サッカー部



灼熱の地上で一致団結

五月二十八・二十九日に日東シンコースタジアム丸岡で試合が行われた。一回戦は丹生高校と対戦

した。前半、後半ともに優位に試合を進め、六対一で二回戦進出を決めた。顧問の中内先生は「攻めることをしっかりと攻めることができた」と試合を振り返った。二回戦では、啓新高校と対戦、力の差はあつたものの、前半は三対五と喰らいついた。しかし後半、相手チームのメンバー交代で

主力が出てきてから不利となり、三対十二で敗れてしまった。今回の大会で活躍した選手は、二年南谷泰良さんと二年和多田壮希さんだ。壮希さんは、一回戦で三得点を決め、ハットトリックを達成した。泰良さんは、二回戦でリズムに乗れない状況でも二得点を決めて試合の流れを変えていた。部長の田辺健太さんは「本当にこの二か月間はあつという間だった。新入生の加入など新しいことが多く不安もあつたが、試合中にはチームの成長が感じられた。これからみんなに期待」と振り返った。

### 繰り広げられた 激戦！ バレー部

六月三日、敦賀市総合運動公園で決勝トーナメントが行われた。

前日の予選は対戦相手と大会直前に出場辞退となった。一回戦武生東高校とは激戦を繰り広げた。一セット目は相手のリズムを崩せず十五・二十五で先制を許してしまう。しかし二セット目は美方が攻勢に転じ、二年の田中美羽さんの強烈なアタックや、キャプテン鳥居愛沙さんの安定感のあるレシーブから逆転し、二十五・十二と勝ち越した。三



思いを乗せた重いサーブ

セット目もいい流れのまま十三・五でコートを手チェンジしたが、相手チームが息を吹き返し、強力なアタックやサーブで逆転されてしまった。その後もお互い

までで一番楽しい試合ができた。後輩達にはお互いをいいライバルとして支えあつて頑張ってください」と語った。

### 強豪相手にも善戦 卓球部

六月一日に団体戦、二・三日に個人戦が県営体育館にて開催された。

団体戦では五試合のうち三試合先取したチームが勝利となる。女子団体一回戦は福井高専に三対一で勝利した。一試合目のシングルで勝ち、二試合目のダブルスを取られるも、三試合目のダブルスと四試合目のシングルで勝利。理想の試合展開でコマを進めた。二回戦の大野高校には善戦したが、〇対三で敗北した。男子団体一回戦では丹生高校に勝利した。一試合目と二試合目の

### ラケットと共に 歩んだ軌跡 テニス部

六月二日、三日、四日に県営テニス場でテニスの大会が行われた。

団体一回戦の相手は足羽高校。一試合目のシングルでは、三年の西村こゆきさんが粘り続けるも敗れた。二試合目のダブルスでは三年の北村侑希乃さん、彦瀬優杏さん

のペアが苦戦するものの、相手にリードされることなく勝った。三試合目、三年の清水麻央さんが勝利し、トータル二対一で勝利した。準々決勝の相手は勝山高校。相手に食らいつき、奮闘するが、惜しくも〇対二で敗退した。個人戦では、三年の紺屋美雲さん、中村美優さんが一回戦勝ちするも、二回戦では二人とも破れてしまった。今回の大会についてキャプテンの西村さんは、

「最後までついてきてくれてありがとうごさいました。引退がかかる試合で、一年生は応援だけだったが、初めて見る試合だったので参考にできるようなプレーを心がけた。二年生がいよいよ分かれからの活躍に期待したい」と語った。テニス部の顧問の田中涼太郎先生は「大会に向けての三年間の練習お疲れ様でした。二回戦敗退という結果だけど、それぞれの戦いで選手たちが見せたプレーは本当にかっこよかったです」と語った。



試合の間に気合を入れる選手たち



シングルでストレート勝ち。次のダブルスでフルセットまでもつれるもコミュニケーションをしっかりと取り、勝利した。二回戦の大会で敗れた相手ということもあり、これまでより集中して挑んだ。シングルスで二本先取するも後の三試合を取られてしまい、二対三で惜しくも敗れた。男子キャプテンの藤原尚大さんは「結果は昨年とあまり変わらなかったが、多くの経験を得ることができた。二年生が



みんなでガッツポーズ





応援に来てくれた観客とグラウンドに礼をする選手たち

六月四日、五日に敦賀市きらめきスタジアムで行われた。大会前に、部長の角野風香さんは「ソフトボールは、チーム戦なので声を出して協力し、支え合うことを意識している。一回戦を突破して、最後

### ソフト部 最後の一球まで諦めず

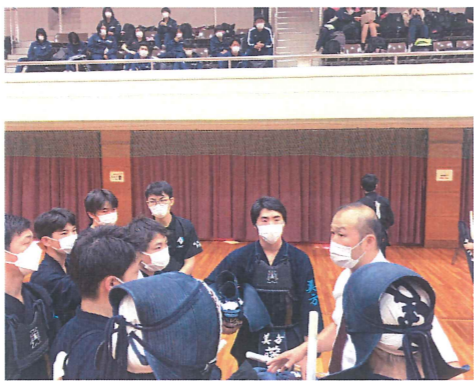
の一球まで諦めずに戦いたい」と意気込みを語っていた。武生商工との初戦では、野村杏純さんが先制点を取り勢いに乗った。その後、途中追いつかれそうになるも逃げ切り、八対五で勝利した。二日目、

二回戦では強豪の啓新高校と対戦した。相手ピッチャーの剛速球から甲斐希凛さんがヒットを放ち、三田菜奈花さんがあわやホームランという打球をフェンス際でキャッチするなど、奮闘するも〇対十五で三回コールド負けとなった。続く三位決定戦では、敦賀気比高校相手に〇対十七で敗れた。この大会で大活躍した甲斐さんは「自分のところに来たボールを絶対にアウトにすることを目標に頑張った」と語った。部長の角野さんは「頼りない三年生だったかもしれないけれど、最後までしっかりついてきてくれてありがとう。人数が少なくても、みんな支えあって、頑張ってください」と三年間の部活動振り返り、後輩にエールを送った。



懸命の投球 三年野村

六月三日〜五日、福井県立武道館にて春季総体が行われた。男子団体は三位に入賞し、六月十七日から行われる北信越総体への出場が決定した。女子団体は準々決勝で惜しくも敗退した。男子団体初戦は、昨年の覇者敦賀高校。先鋒、次鋒、中堅、副将と引き分け続きになり、勝利は部長であり大将の藤原匡之介さんに託された。緊張の中、藤原さんは逆胴で勝利をもぎ取り会場は大いに盛り上がった。その後二回戦の対戦相手は武生高校。二勝、二引き分け、一敗で勝利。



西川先生の言葉で後押し

とで、勝つことができた。部員にも、応援してください。さった方々にも感謝している」と語った。



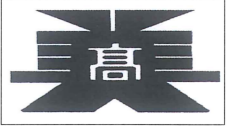
大将橋詰によるウルトラ一本

女子団体は初戦北陸高校と対戦。二勝、三引き分けで勝利し、準々決勝に進出。続く対戦相手は丸岡高校。三引き分け、一敗と後がない状況で勝ちを託された二年生の大将橋詰みゆさん。相手の三年生大将に一本取られるも、負けじと一本取り返す健闘を見せたが惜しくも敗れてしまった。女子部長の河原奈那美さんは「男子の試合に勢いをもらい、自分と仲間を信じて試合に臨んだ。北信越には出場できなかったが一回戦から自分の役割を果たすことができた」と語った。また後輩には「三人でこれからインターハイを目指して頑張ってください」とエールを送った。

### 剣道 男子団体北信越出場

続いて準決勝の対戦相手は敦賀気比高校。三引き分け、二敗で敗れ三位に留まった。藤原部長は「部員全員が一丸となり、試合も先鋒から大将まで、どのチームよりも強い繋がりがあったことができた」と語った。

# 美方高校新聞



発行所 福井県立美方高等学校 新聞部 編集責任者 新 編集長 新 編集員

# 最強美方漕艇部 三種目でインターハイ

## 春季総体結果発表



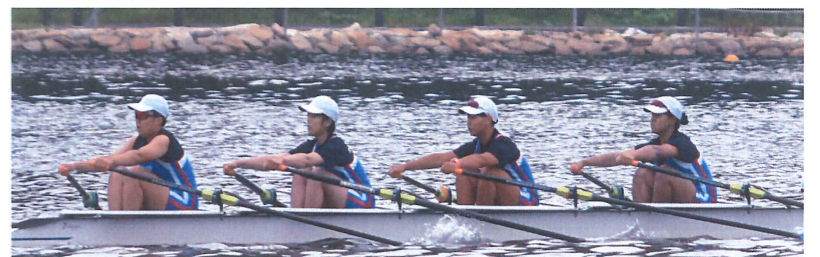
最強ボート部 ハイ、チーズ!

五月二十八日〜六月六日、県内の各会場で福井県春季高校総体が行われた。今年には観客の競技もあり、会場には熱気が戻り、選手たちのプレーにも力が入っていた。新聞部の取材も四競技で可能となった。

六月四〜五日、久々子湖漕艇場で行われた。初日は強風により競技が中止となり、予選から決勝までを二日目にまとめるという波乱の幕開けとなった。そんな悪条件の中、選手たちは最後まで集中力を切らさず頑張った。美方高校は六種目中三種目で優勝し、インターハイ出場を決めた。



水上・友情・優勝のハイタッチ



女子クォドルブルの最強メンバー



男子クォドルブルのスーパーローイング

男子舵手付クォドルブル岸本智樹、柴崎峻佑、石田歩、岡本風哉、コツクス尾寛太は、二位の艇と十四秒差での優勝。女子舵手付クォドルブル嶋田彩桜、中村彩香、上村柚子、岡部清華、コツクス尾美桜はスタートからリードし、二位と二十八秒差をつけ最後まで独走。女子ダブルスカル岩本結愛、武田望花は、二年生ペアながらも終始他校の艇を大きく引き離して優勝した。女子シングルスカルでは、二年生の小野寺沙耶が一位と八秒差で惜しくも二位となった。

予選では課題が多かったが、決勝までしっかりと整理し、切り替えることができた。今後はもっと細かい技術を磨いていきたい。顧問清水先生 今の状態では頂点には立てない。課題が山積みである。それぞれがインターハイまでの二ヵ月という短い期間で究極のスピードを求めて取り組んでいてもらいたい。

上村柚子 女子キャプテン

顧問のコメント 男子キャプテン 柴崎峻佑